

皮膚科

1. スタッフ (2024年4月1日現在)

科長（教授）	前川 武雄
病棟医長（講師）	梅本 尚可
外来医長（臨床助教）	新井 優希
シニアレジデント	5名

2. 診療科の特徴

地域の中核病院として、美容皮膚科とレーザー治療を除くあらゆる皮膚疾患に対応している。中でも皮膚外科・皮膚腫瘍、アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などのアレルギー疾患、乾癬や水疱症などの自己免疫性疾患には、最新の治療を提供している。

・認定施設

日本皮膚科学会専門医主研修施設

・認定医

日本皮膚科学会皮膚科専門医

前川武雄 梅本尚可

日本臨床皮膚外科学会皮膚外科専門医

梅本尚可

日本皮膚科学会皮膚悪性腫瘍指導専門医

前川武雄

がん治療認定医機構がん治療認定医

前川武雄

3. 診療実績

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	1,295人
再来患者数	22,545人
1日平均患者数	98人

2) 入院患者数（病名別）

病名	患者数
皮膚良性腫瘍	29
皮膚悪性腫瘍（手術、化学療法、紫外線療法、放射線治療など）	117
丹毒、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎	19
乾癬（紫外線療法、生物学的製剤投与）	2
水疱症（天疱瘡、類天疱瘡）	30
蕁疹、中毒疹、尋麻疹	20
アトピー性皮膚炎・湿疹	1
帯状疱疹、カポジー水痘様発疹症	0
膠原病	5
脱毛症	26
その他（手術あり）	26

その他（手術なし）	55
合計	330

3-1) 中央手術室の手術件数（病名別）

病名	件数
皮膚悪性腫瘍	46
皮膚良性腫瘍	6
感染症	1
皮膚潰瘍	4
化膿性汗腺炎	13
合計	70

3-2) 外来手術件数

腫瘍摘出術・皮膚生検 1,004件

3-3) 術後合併症件数（中央手術室）

なし

4) 化学療法など 症例・数（入院患者）

悪性黒色腫 2件

血管肉腫 3件

メルケル細胞癌 1件

基底細胞癌 1件

5) 放射線療法症例・数（入院患者）

悪性黒色腫 1件

血管肉腫 3件

有棘細胞癌 1件

6) その他の治療症例・数

ナローバンドまたはPUVA紫外線照射症例数 1日平均 30例

脱毛症 ステロイド全身投与（パルス療法含む） 26例

乾癬 生物学的製剤投与 96例

7) クリニカルインディケーター

(1) 死亡症例 2例

8) 主な検査

内服テスト 10件（入院）

パッチテスト 68件

プリックテスト 31件

光線テスト 12件

発汗テスト 3件（入院）

4. カンファランス

教授回診：毎週水曜日

臨床カンファランス：毎週水曜日

病理カンファランス：隔週水曜日

術前カンファランス：毎週水曜日

抄読会：隔週火曜日

真菌勉強会：1回/3ヶ月

5. 研究・学会活動

英文原著 10編

和文原著 18編

著書・総説 15編

国内学会発表 33題

国際学会発表 7題

6. 部門・部署ごとの事業計画、2025年の目標

現在、皮膚科入院患者の大多数を占めているのは皮膚悪性腫瘍、自己免疫性水疱症、重症薬疹、重症感染症など、大学病院ならではの比較的重篤な疾患である。特に2023年度からは、皮膚外科手術および皮膚悪性腫瘍診療に力を入れており、従来は他科や他病院に手術や薬物治療を依頼していたような症例も、自施設で治療を完結できるようになった。

引き続きあらゆる皮膚疾患に対応する体制を維持しつつ、皮膚外科・皮膚悪性腫瘍分野の診療体制を強化すべく、2024年からは専門外来として皮膚外科外来を開設した。既設のアレルギー外来、乾癬外来とあわせて、より専門的な治療を提供している。

また、地域医療機関との連携強化をこれまで以上に強化し、逆紹介可能な疾患については近隣医療機関での継続的フォローを依頼しつつ、転院調整や早期退院を促進する体制の確立を目指している。同時に、他院からの緊急疾患や紹介患者を円滑に受け入れられるための院内体制の整備も推進している。

研究面では、皮膚悪性腫瘍領域を中心に多数の多施設共同研究に参加しており、その診療実績が評価され、現在は2つの医師主導治験にも参画している。皮膚悪性腫瘍は希少癌であることから、全国規模でのデータ創出が求められている現状において、当科としてもエビデンスの蓄積に貢献していきたいと考えている。